

科目・コース（ユニット）名：生命倫理
英語名称：Bioethics

【担当責任者】 亀岡弥生（総合科学教育研究センター）

【連絡先】 igakukyo@fmu.ac.jp

【開講年次】 1 年, 【学期】 後期, 【必修／選択】 必修,
【授業形態】 講義／演習

【概要】 人間の命を守るための医学は、倫理的・社会的・哲学的・法的問題を包摂しながら発達している。高度な延命技術を適用されている患者が死を希求したらどうすべきか、出生前診断で望まない結果を得た場合まだ生まれていない人々の権利をどう考えるか、DNA 操作技術をどこまで人に応用するのか——これらは、かつては望むべくもなかった生命への介入技術を獲得したことにより直面する新たな倫理的問題である。私達はこのような倫理的問題をどのように考えたらよいのだろうか。

「生命倫理」では、生命の価値や人間の存在についての哲学的・倫理的な考え方を学ぶ。4 年生で履修する「医療倫理」は、この科目で学んだ考え方を、臨床上遭遇する倫理的問題、研究倫理、さらに科学の発達に伴い今後起こり得る倫理的問題に適用して考察する。

【学習目標】

1. 医療者が生命倫理を学ぶ意義を自分の言葉で説明できる。
2. 法、道徳、倫理の違いを説明できる。
3. 患者の尊厳に関わる歴史的な出来事とそれに伴う尊厳の認識の変遷を説明できる。
4. カントの「義務論」とベンサム「功利主義」の二つの倫理理論を参照して、事例を分析できる。
5. 提示された事例に対する自身の判断とその根拠を、筋道を立てて説明できる。
6. 提示された事例に対する自身及び他者の判断を、医療の 4 原則の枠組みを用いて検証できる。

【教科書】 指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

1. 黒崎剛／野村俊明『生命倫理の教科書』ミネルヴァ書房
2. アラスデア・V・キャンベル（著）山本圭一郎／中澤栄輔／瀧本禎之／赤林朗（訳）『生命倫理学とは何か 入門から最先端へ』勁草

【成績評価方法】

- ・履修規定により、単位認定には原則として三分の二の出席が必要である。
- ・授業への参加態度、授業時間に記入するレスポンスペーパーの提出と内容、最終回で行う学修課題の記述を総合して評価する。

【学習上の注意事項】授業には、「話を聞く」のではなく「聞いて自ら考え、討論し、書く」という能動的な姿勢で臨んでください。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2026/11/11	水	4-6	(講) 生命倫理入門 「倫理学」とは 「生命倫理」とは	本多創史
2	2026/11/18	水	4-5	(講) もう一つの応用倫理学「環境倫理」	大倉 茂
3	2026/11/25	水	4-6	(講)(演) 事例検討① 義務論と功利主義から考える 「出生前診断と命の選別」	本多創史
4	2026/12/2	水	4-6	(講)(演) 事例検討② 医療倫理の4原則から評価する 「安楽死・尊厳死・自殺幇助」	本多創史
5	2026/12/4	金	1	(総括) 振り返りと課題学習	安井清孝

【担当教員】

教員氏名	職	所属
本多 創史	教授	総合科学教育研究センター
大倉 茂	教授	東京農工大学大学院農学研究院
安井 清孝	助教	医療人育成・支援センター
亀岡 弥生	教授	総合科学教育研究センター

【医師として実務経験のある教員による授業科目】該当する